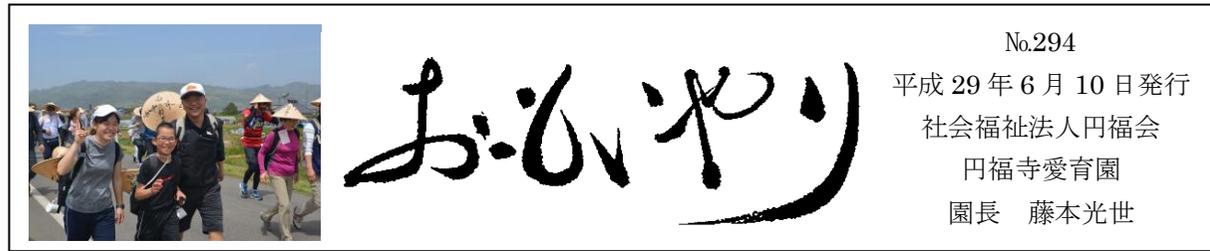


リレーマラソン、善光寺ウォーキング特集号です。写真は千曲川の土手の上です。



限界を破る

園長 藤本光世

松本平運動公園で開催された、第1回みんなでつなぐ5時間リレーマラソンのファミリー世代混成の部で優勝できたことは、愛育園にとって大きな朗報でした。この大会があることを見つけた青谷副園長、この大会に向けて子どもたちと共に1ヶ月間練習し作戦を練った職員と全力で走った子どもたちに敬意を捧げます。小学生も小・中学生の部に参加して、3位になりました。これも立派だったと思います。



これまで、施設の子どもたちは、施設の児童の中で競っていました。例えば東北信地区の児童養

護施設が一堂に会して開催された、長野県東北信地区児童福祉連盟主催の運動会などです。当園の子どもたち全員が、運動会のマラソンを目指して、1カ月以上、毎日練習しました。その成果は当園の児童が入賞者の半数を占めるほどの成績を上げました。それは、愛育園の養育力の高まりによる、子どもたちの努力の成果であり、嬉しく思いました。でも、それは施設という枠の中での大会でした。一般の大会で、練習して本気になって走る子ども達と競いたい。この願いが須坂マラソン、安曇野リレーマラソンの出場となりました。それらの経験が生きて発展して、5時間リレーマラソンになったのです。

報告を聞くと、あの子がこんなにも頑張った、この子が死に物狂いで走った、この子も全力で走った。その姿を学校の先生に見せてやりたい。あの子の走りっぷりはあんなに美しく素晴らしいと初めて知った、などと子どものこれまで見えなかった良い面がたくさん見えました。急きょ開催した祝勝会でも、監督の冨澤先生から一人一人の走りの報告があり、それには喜びと感動と熱意が伝わって来て、だからあのように詳しく子どもの心を理解して報告出来たのだと、思いました。嬉しかったです。冨澤先生の胴上げは上がりましたか？

愛育園は子育てで、子どもの心を強くしたいと願っています。やるべきことが分かって自分からその実現のために本気で努力する子どもであってほしいと思います。苦しくても結果が出なくても努力を継続できる子どもであってほしいと思います。でも、それは難しいことです。ともすると楽な方に逃げる。友達の誘惑に負ける。理由を作ってごまかす。弱い自分を見せるのを怖がって取り繕う。自分の限界に勝負するような場面では誰もが弱さが出ます。

愛育園は子どもが、自分の限界を破って伸ばす努力することを後押ししています。その努力こそ宝となることを知っているからです。一生懸命やっていることが重要性を知っています。リレーマラソンは、子どもの限界を拓ける機会となりました。みんなのために一生懸命走る、全力で走る、優勝をかけて走る。このことが、子どもたちに思いがけない力をもたらしました。今まで見たこともない美しい表情を見せてくれました。それは、子どもの自信となって心を強くする力となるでしょう。

秋のリレーマラソンが楽しみです。

松本平5hリレーマラソン

副園長 青谷 幸治

5月21日、第1回松本平5hリレーマラソン(小学生3h)に出場しました。1.8kmのコースを5hで何周できるかを競う競技です。中高生職員チームと小学生チームの2チームのエントリーをしました。初めての経験であり、長時間子どもたちの気持ちが保ち続けることができるか心配でした。しかし、心配とは逆に一人一人が力いっぱい走る姿がありました。ゴールして倒れる子、足がけいれんした子など力を抜くどころか皆とタスキを必死でつなぐ強い気持ちを感じました。中高生は、2位のチームと競っていることわかれる自分たちで走る順番を入れ替えたり、タイムを気にしたり、自分自身に気持ちを入れて走っていることも感動しました。結果は小学生の部で19周で

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

3位、中高生職員で39周で優勝を勝ち取ることができました。そして、副賞としてお米100kgをいただきました。結果以上に力を出し切ったことへの満足感や大きな自信になったことは、今回の参加が成功だったと思えました。また中高生が自ら目標を作り、実行して結果を出すことへのこだわりも出てきたことも合わせて嬉しく思いました。また次回も参加していきたいと思えます。

5時間リレーマラソン

あおぞら 佐々木 弘観

5月20日に松本にて行われた5時間リレーマラソンという行事に参加してきました。今回初参加となる行事です。この行事は、10人以下のチームを作り、5時間（小中学生は3時間）という時間内で規定の1・8Kmのコースを何週出来るか競うというものです。



何時間も走り続ける長丁場ですので、中学生と職員とで10名のチームを作り、1ヶ月程前から練習を始めました。ですが、小学生からも「走りたーい！」との声があり、練習で走ってみると皆真剣な顔つきで一生懸命走っていました。ですので、急遽もう1チーム作り、中高生・職員の「世代混成チーム」と「小学生チーム」の2チームで参加することになりました。当日までの練習も記録表を作り、みんな日々早くなっていくタイムを見て一段とやる気を見せて練習に励んできました。

当初の目標は、小学生は15周。中高生は30周を目標にしていたのですが、みんなの頑張りで練習タイムがぐんぐん伸びていたので、前日のミーティングでは目標を高くし、小学生20周。中高生40周に変更しました。

当日、スタートをするとみんな真剣に走っていました。たすきを繋ぐ中継地点では、「頑張れ！」「もう少しだよ！」と皆で声を張り上げて応援する姿がありました。練習のタイムよりも早く走ってくる子や、他の子をカバーするために何回も走り、足が痙攣を起こしても最後まで走り切ったたすきを繋ぐ子など、みんなそれぞれ応援を受けて、自分の限界以上に頑張っていました。みんながそれぞれチームのために必死になって走り、他の子を応援し、まさにチーム一丸となって頑張っていました。

途中経過では、小学生は7位、中高生・職員は2位でした。ここまできたら、上の順位を目指そう！とみんなで話し、それぞれが全力を出し切りました。3時間の時点で小学生はゴールでしたが、なんと結果は3位入賞！！その後、小学生は、中高生・職員の手伝いをしてくれました。走り終わった子に水分を用意してくれたり、氷で首を冷やしてくれたり、みんなが助けてくれました。

(平成29年6月10日発行 月刊「円福」491号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

そんなチーム一丸となって挑んだ中高生・職員チームの結果は、優勝！目標まではちょっと届かず、39周でした。

3位や優勝することができたのは、みんなが一丸となって応援し励ましあって走りきった事、他の子をカバーしようと限界以上に頑張る子、自分には何が出来るか考えて他の子のケアをする子など、どれか一つでも欠けていたら達成できなかった事だと思います。



走り終えた子はみんな最高の笑顔でした。大成功の行事！今回の経験、自信を次に繋げて、子ども達、職員、一丸となって頑張っていきたいと思えます。

松本平5時間リレーマラソン

あおぞら保育士 富澤正樹

5月20日、第一回の「松本平5時間リレーマラソン」に参加してきました。

数多くのドラマが生まれた一日となりました。

私達には「5時間で40周走る」という目標がありました。とはいえ、初めての大会で勝手も分からない中で、イメージがつかない中でスタートしたのですが、開始から1時間で目標がハッキリする事になりました。1時間走った所で、8周目を走行中で、このペースは40周行くかどうかギリギリ。そして、初めの途中経過で、部門内で2位にわずか1周差の1位を走っている事が分かったのです。

「40周達成する！優勝もする！」目標が明確になって、みんなの目の色が変わりました。

高3のS君は、ハイペースで走って、4回目にはコース前半で足をつってしまいました。でも、そこからでも立ち止まらず、歩きもせず、片足ケンケンの様な状態で最後まで走り切ってしまいました。タスキを渡した後は、倒れ込み、動けなくなってしまっていました。壮絶でした。

中3のYさんは、少し全体の雰囲気にも乗遅れて、マイペースに走っていたのですが、「40周達成するには、Yの力が必要だ」と声を掛けられると、疲れの溜まった4回目でベストラップを出してしまいました。タスキを渡した瞬間、泣き崩れてしまいましたが、自分のタイムを見てとても喜んでいました。

中1のHさんは、「私が走ったら、みんなの足を引っ張っちゃう」と、3回目を走るかどうか躊躇していました。周りから「遅れても、俺の所で取り返せる」「思い切ってやろう」「みんなで勝とう」と背中を押され、最後には「走る」と決断しました。普段、引っ込み思案の子が前向きな姿勢

を見せてくれました。

途中、抜きつ抜かれつ、1位、2位が入れ替わり、ドキドキしっぱなしの後半戦。皆が疲れを感じ始め、「もう少し、休憩を入れたい」という子も出始める中、「次、俺いきましょか?」「まだ、自分行けますよ」と中1のK君と中2のY君。いつの間にこんなに頼もしくなったんだというくらい、何度も何度もチームのために走って、1人で6、7周してしまいました。

ラスト1時間、みんな、もうバテバテです。それはそうです。タイムを維持しながら走らなければ目標を達成できません。この1周が最後になるだろうという所で、最後は高3のS君が走りまし

た。2位とは2周差近くつけて、優勝は見えてきました。40周はというと、S君が走っているまさにその周が40周目でありました。ホイッスルが鳴る前にゴールすれば、目標達成です。・・・が残念ながら、残り半分ほど距離を残



した所でタイムアップ。「それでも皆、良く頑張った。」「最後はみんなで手をつないで、みんなでゴールしよう」と、S君にゴール手前で声を掛けました。

しかし、S君は40周の目標を達成しようと私の言葉が全く耳に入っていない様子で、最後まで行ってしまいました。

部門優勝。記録39周。賞品お米100キロ。達成感と一体感でいっぱいになりました。

5時間の中で、子ども達は計り知れない自信を手にしたように思います。

次回マラソン大会に向けて、また頑張っていきたいです。

5時間リレーマラソン

主任保育士 石崎 早織

5月20日に松本で行われた5時間リレーマラソンに参加してきました。この大会自体今回が第1回ということもあり、どんな大会になるのか、不安もあり楽しみもありました。私は小中学生の部の監督をやらせて頂きました。小中学生の部は5時間ではなく、3時間リレーでした。それでも3時間を順番で走るといのはとても大変な事ですし、小学生のマラソン練習を見ていると、どのくらい走れるかという心配もありました。子ども達の中にはもちろんマラソンが得意な子もいれば、そうでない子もいます。でも今回この大会に参加したい人を聞くとほぼ全員が手を上げていました。挑戦する心が育っているな一と思いました。大会当日は会場も広く、人の多さに圧倒されていた子どもたちでしたが、「自分の全力を出す」「チームで心をつなげる」「最後までやり切る」という事

を目標にし、3時間マラソンがスタートしました。トップバッターのH君はすごく緊張していて表情を見るだけでも心の心境が伝わってきました。それでもトップバッターとしての責任を果たすべく、チームの為に一生懸命走ってくれました。次々に順番が回り、自分の番に近づくにつれドキドキしているのがわかります。でも絶対走り切るとい強い思いもあり、普段では中々見られない表情をしていました。中でもすごかったのがR君。園でマラソン練習をするときはいつも遅く、あまりマラソンが得意ではないのかな?という感じの子です。だけど、この大会で見せたR君はこれまでの姿とは全く違い、1.8キロを7分台で帰ってきました。私自身もビックリしていましたが、R君は次何番目に走る?など今までにないくらい気合が入っており、チームを良い雰囲気で行張ってくれました。他にも自分の全力を全て出し、次の人にタスキを回さなくてはならないという責任感が芽生えたり、走り終わったら今度はチームの人をサポートする側に回ったり。初めはこちらから「〇〇やって」など指示を出さなくては動けなかった子ども達も、だんだんと周りの状況を見て、今自分にできる事を探し、一生懸命動いてくれました。その結果3位になる事が出来ました。結果が全てではありませんが、頑張った成果がこのように形で出てくれ

すごく嬉しかったですし、何より子ども達の自信に繋がってくれたと思います。隣では中高生+職員チームが5時間リレーマラソンに挑戦しており、倒れるくらい頑張っている中高生の姿を見て何か感じるものがあつたのではないかと思います。



すぐ嬉しかったですし、何より子ども達の自信に繋がってくれたと思います。隣では中高生+職員チームが5時間リレーマラソンに挑戦しており、倒れるくらい頑張っている中高生の姿を見て何か感じるものがあつたのではないかと思います。

5時間リレーマラソン

まごころ 渡邊梓

初参加となる5時間リレーマラソンのファミリー(世代混合)の部で優勝、小中学生の部で3位を見事愛育園で勝ち取ることができました!この優勝は、チームのみんなで勝ち取ったものだと、このメンバー以外では手にすることが出来なかったと感じます。

大会の約1ヶ月前から、参加する



子どもと職員で練習を重ねてきました。始めは、ファミリーの部のみのエントリーでしたが、「私もやりたい!」「僕も!」と言う声が多く、急遽小中学生の部に小学生10人でエントリーすることになりました。驚いたのは、あまり走るのが得意ではないであろう子達も、やりたい!と手を挙げたことです。正直、私も長距離を走ることが苦手で、あまり好きではありませんでしたが、子ども達のやる気に押され練習に参加していくうちに、もっと頑張ろう、あと何秒早く、今日こそはベストを!と前向きになっていました。始めのうちは、タイムが良かった、遅くなったと自分の事ばかりだった子ども達も、日に日に仲間への声かけが多くなっていきました。「ラストー!」「ダッシュ!」「最後まで、まだいける!」そんな言葉が飛び交っていました。先にゴールした子の中には、まだ走っている子の所まで戻って一緒に走ってくる、そんな姿も見ることが出来ました。これらの行動は、決して職員からやるように言ったものではなく、子ども達から始めていたものです。とても良い姿だと思います。仲間と一緒に頑張ると言う事、仲間の為に頑張ると言う事、愛育園の行事や日々の生活からしっかり学んでいるな、と思いました。今回のリレーマラソンを通しての子ども達の良い姿勢や一生懸命な気持ちも、今後の生活に活かしていけるよう私もサポートしていきたいと思えます。

みんなでつなぐ5時間リレーマラソン

あおぞら 保育士 近藤誠志郎

5月20日、松本市のやまびこドーム周辺で開催されました「第1回 Abn5時間リレーマラソン」に円福寺愛育園チームの一員として参加させて頂きました。大会に向けて5月1日より練習を開始し、個々の走力を高めるとともに、チームの団結を深め、大会当日を迎えました。大会当日は気温が30度前後まで上がり、太陽の照りつける中でのリレーマラソンとなりました。体調不良者が出てしまうのではないかと心配でしたが、園児、職員は無事に走り続けることができ、小学生チームは小・中学生の部で3位、園児・職員の合同チームはファミリー・世代混成の部で1位という素晴らしい結果を出すことができました。

今回のリレーマラソンでは、円福寺愛育園がひとつになると、とても大きな力を発揮することができると感じました。特に応援、サポートを一生懸命している姿が目につきました。走っている人を待機場所から離れてまで応援に行き声を出す、走る前にエールを送る、走り終わった人にタオルや飲み物を渡す。このような応援・サポートを5時間、懸命に続けることはとても大変なことなのですが、それが当然かのようにできていました。私自身、走りながら何度も辛い、と思うことはありましたが、その度に応援・サポートをする園児の姿を思うことで、一秒でも速くタスキを繋ぐ、そのような思いをもって走りぬくことができました。

ただ、前日にチームで立てた1.8kmコースを5時間で40周走るという目標があったのですが、それを達成するためにはあと2分ほど足らなかったことが心残りです。しかし、園児・職員が全力を出し切ったことは確かであり、目標は達成することはできませんでしたが、優勝することができました。また次回、参加させていただくことがあるならば、今度こそ目標を達成して優勝したいと

思います。

この度、リレーマラソンで園児が本気で頑張る姿を見て、胸が熱くなるのを感じました。また、大会終了後、園児に「走っている先生、かっこよかった」と言われ、とても嬉しく思いました。この感動をこれからも味わえるように、そして私自身が人に感動を与えることができるように、愛育園の職員として精進していきたいと思えます。

松本リレーマラソン児童感想

<小学生の部>

5月20日、私は「愛育園2」チームとして、松本リレーマラソンへ行きました。知らない人ばかりでドキドキしていました。しかしその中でワクワクが一番多く「絶対諦めないで1位をとる」と目標を作っていました。始めの1周はとても張り切っていたので9分台で走り終えました。ベストではなかったけど早く走れた方でした。それからみんなの応援をしていたけど、全力で出来なかったので反省しています。そして十周以上経った所で私の番が来ました。最初の一周目で張り切り過ぎたせいか、途中で疲れて諦めてしまいました。それでも12分で走りましたがもっと早く走れたらと後悔しています。

他のチームを見るとずっと同じ人が何周も走っているのを見てすごいなーと思いました。今小学校では組体操の練習をしています。「～友～支え合い」というテーマでやっていますが、リレーマラソンもタスキを通じて心をつないでいるなーと思いました。結果小学生チームは3位になる事が出来ました!! (小6A・M)

5月20日に松本平5時間リレーマラソンに出ました。私が心に残った事は3つあります。一つ目は目標にしていた2周以上走れたことです。小学生は小中学生の部で出て3時間走りました。一人2周もできるのかなと思いながら走っていました。あとアンカーで最後を走りました。リレーマラソンでアンカーなんてなった事がなかったのでとてもドキドキしていました。最後ゴールする時にみんなが「最後だから頑張って」など応援してくれて嬉しかったです。二つ目は私が最後ゴールして横になっている時に体を冷やしてくれたり、飲み物をくれたりととても嬉しかったです。最後まで頑張ってよかったなと思いました。私も誰かのお手伝いなどしたいと思いました。三つ目は三位になれたことです。初めは5位くらいだと思っていたけど最後ゴールをした時にスタッフの人に「3位です」と言われた時はとても嬉しかったです。表彰式では表彰台にみんなで登る事が出来ました。3位になれたのもみんなで協力して走ったからだなと思います。



次は10月にある「須坂マラソン」と「安曇野リレーマラソン」に出られるように頑張りたいです。(小5S・Y)

<中学生の部>

5月20日に松本リレーマラソンに参加しました。初めて出るマラソン大会だと聞いてすごく緊張しました。本番までは欠かさず毎日マラソン練習がり、すごくつらかったです。みんなよりも早くゴールしたいということではなく、昨日、前回の自分のタイムよりも一秒でも早く走れる事が自分の中での目標でした。練習でタイムが落ちてしまった時は、練習やりたくない・・・など思っていました。けどやんなきゃいけないな～と思いながらもやると自己ベストだったりして嬉しかったです。大会当日。中高生チームは中高生6人と大人4人で走りました。コースの下見をしましたが、とっても長く感じました。チームの目標は5時間で40周というのが目標でした。自分の順番が回ってきた時は本当にドキドキしました。初めての坂道があり、辛かったです。けど練習など一緒にやってきたチームのみんなに迷惑をかけたくなかったので歩かず精一杯頑張りました。タイムは一回目は普段のタイムよりちょっと遅いぐらいでした。でも2回目3回目は疲れて走るタイムが遅くなってしまいました。3回目のタイムは8分1秒だったのでとても悔しかったです。4回目走る前富澤先生に「これはYの為の大会」と言われビックリしました。何分で帰って来れる？と聞かれ7分50秒で帰ってくると言いました。本当にこのタイムで帰ってこれるか不安だったけど頑張りました。途中で歩いたり手を抜くこともしませんでした。ゴールしたあとは本当に疲れて疲れて大変でした。その後辛かったことが一気に泣いてしまいました。でも先生や周りの人たちがお疲れ様と言ってくれ、応援されているんだという事を改めて感じました。本当にみんなに感謝したいです。40周という目標はやる前は絶対できないだろうと思っていたけど、みんなが頑張ってくれてみんなが一生懸命応援して5時間走り続けたおかげで39周というところまで行くことが出来たのだと思います。この第1回リレーマラソンはみんなで協力した行事にすることが出来ました。(中3Y・O)



牛に引かれて善光寺詣り

副園長 青谷 幸治

今年も「牛に引かれて善光寺詣り」30kmウォーキングに参加しました。今年で3度目ということもあり、中高生も慣れたものでスタートからゴールまで先頭で全体を引っ張ってくれました。5月の爽やかな季節に千曲川の堤防沿いを皆で歩きました。中高生と職員がゆっくりと日頃話せないことを話しながらウォーキングを楽しみました。中高生にとって職員とたくさん話ができて満足した様子でした。目標は皆で30kmを完歩すること。しかしそれ以上に中高生が職員とコミュニケ

ーションをとることが裏の大きな目標でした。今年もそれを達成することができ、参加した意義と大きな経験になりました。

しかし、3回も参加すると中高生も慣れてきましたので、いよいよ次回は佐久強歩大会(78km)への参加を検討し、楽しいだけでなく自分との戦いに向けて、より一層心を鍛えていければと思います。皆さんお疲れ様でした。

牛に引かれて善光寺詣り

5月7日、善光寺30キロウォーキングに参加してきました。今年で3回目の参加となりましたが、参加した中高生・職員共々、朝早くからスタート地点の戸倉上山田温泉を出発し、ゴールの善光寺まで、皆で歩き切る事が出来ました。

過去2回のウォーキングに参加した子達は、様子が分かっているので、自分達で目標を作っていました。「スタートからゴールまで最前列を歩く」これです。私もこの目標を立てた子達の仲間に入れてもらい、必死に歩きました。先頭集団というのは、ペースが速く、30キロともなると、非常にきついのですが、「ただゴールするだけなら去年も出来たし、より高い目標を」と自分達で考える子ども達の姿勢に、普段からの生活での意識の高さを感じました。そうして、私を含めた愛育園の児童5人ほど(その内2人は、今年から初参加の中学1年生)が、スタートから先頭で歩いていると、合間の休憩ポイントを通過するごとに、後方を歩いていた他の愛育園の児童が1人、2人と先頭集団の続々と加わってきました。中間地点を過ぎた頃には、なんと園の児童・職員全員が先頭を歩いていました。私は、後から先頭集団に加わってきた児童達は何故、前の方に来たのだろうか？と思いました。色々理由はあると思いますが、一番の理由は先頭集団を歩く子ども達の歩く様子が、明るくて楽しそうだったからじゃないかと思っています。私自身も、子ども達の前向きなエネルギーに引っ張られて最後まで歩き切れたからです。明るいエネルギーに引っ張られて、皆が集まって、同じ時間を共有できたことが本当に嬉しくて、ゴールした時には、今までよりも感動してしまいました。初めに目標を作ってくれた高3のS君とNさんのおかげです。

年度の初めにとっても良い行事になりました。新たな目標を持って、今後も子ども達と過ごしていきたいと思っています。



あおぞら保育士 富澤正樹



『牛にひかれて善光寺参り』

まごころ 竹内早季

今回、私は2回目の参加でした。昨年も晴天でしたが、今回も天候に恵まれました。子どもたちは元気いっぱい、スタート直後から先頭集団をほぼ園児たちが独占状態でした。「今年も先頭を歩く。」と話している子もいました。私は昨年先頭の速いペースについていけず、一緒に歩いたSさんと話をしながらゆったり歩いていました。今回は頑張って先頭についていこうかなと思っていましたが、思った以上にペースが速く全然ついていけませんでした。休憩地点に着くたびに、先頭を歩いた園児がすでに到着しているのを見て、すごいなあと感心するばかりでした。中盤、昨年も一緒に歩いたSさんとたくさん話をしました。学校のこと、好きな本やお菓子作りのことなど話題は様々でしたが、Sさんの読書量やその知識の幅に驚きました。また、歩いている最中全く弱音を吐かず、前向きな姿勢も見られました。正直、足が痛み、大変な道のりでしたが、Sさんの良いところが再発見できて良かったです。そして、昼休憩後、Sさんは「先頭についていこう！」と意気込み、引っ張られるように私も先頭集団と歩きました。ほぼ早歩き状態でしたが、最後まで粘り、善光寺までたどり着いたときは大きな達成感を得られました。最初から最後まで先頭を歩いた園児たちにはただただ感心するばかりです。また、最後まで前向きに取り組んだSさんに感謝したいと思いました。



初めて行事、牛に引かれて善光寺ウォーキングに参加しました。

牛に引かれて善光寺ウォーキング

調理員 橋本 雅

上山田から善光寺 30 kmの道のりを完歩できるのか、みんなのペースについていけるのか、どの道を歩くのか凄く不安でした。当日歩く前は、風が強くて寒かったが歩いているうちに暖かくなりました。子供達の活気ある歩きや笑顔に元気をもらい一緒になって歩くことができました。自然を肌で感じ、子供達と語り合い、園に残った子供達の応援に元気をもらい 30 kmの道のりをゴールすることができました。何度も途中苦しかったが、みんなと励まし合いながら歩き続けて善光寺にゴールできたときはとても感動しました。子供達となかなか話す時間もない私自身、子供たちと沢山話すことができました。子供達と触れ合う良き時間を過ごすことができました。

子供たちと触れ合う良き時間を過ごすことができました。

善光寺ウォーキング 児童感想

5月7日に戸倉上山田温泉から善光寺まで30キロ歩きました。僕は今年で2回目でした。去年も大変だったけど、今年はずっと大変でした。途中で足がとてみたいくなってしまったのです。足を引きずっていると、救護の人に「痛かったら、無理しないで救護車に乗っていいよ」と言われたけど、僕は、ここであきらめたら意味が無いと思い「最後まで頑張ります。」と言いました。

善光寺に近づくにつれて、とても満足感がありました。最後まで歩き切って本当に良かったです。

(高1 SA)

母の日の会

あおぞら保育士 富澤正樹

今年も母の日に、女性職員の皆さんに子ども達から、日頃の感謝を込めてメッセージカードと手作りプレゼントを用意しました。一週間前、こっそり中高生を呼び出して、今年は何をプレゼントしようかと相談すると、高3のNさんから「いつも身に付けてくれるものが良い」と提案がありました。そこから相談を重ねて、ビーズストラップをプレゼントしよう決めました。材料を準備したり、デザインを考えたり、一生懸命に作りました。いつもは私が、いくつか提案したものの中から、子ども達が選んだりするのですが、子ども達の方から提案してくる姿があり、そういった姿を見ると、日頃、職員に対して心から感謝しているのだなあと感じます。

また、私が印象に残っているのは、母の日の数日前に、学習の事や生活の事で、注意を受ける事が多かった中学2年生の女の子が、実に楽しそうにストラップを作っていたのです。厳しい事を言われれば、こういった行事には消極的になってもおかしくないと思うのですが、日頃の関わりの中で、しっかり信頼関係が結ばれているのだなあと感じました。

みんなが頑張った甲斐があって、当日は、女性職員の皆さんに喜んでもらう事ができて、プレゼントした子ども達も喜んでいました。

また1年後、子ども達と心のこもった母の日の会を作って行きたいと思います。

東中との懇談会

あおぞらホーム 保育士 佐々木 弘観

5月23日に、篠ノ井東中学校との懇談会が行われました。今年度は3名が新たに篠ノ井東中学校へ入学をし、7名が通っています。

学校の先生方より、それぞれの子の授業への取り組み方や生活面を中心にお伺いしました。今年度の入学した3名の児童は、みんな早く新しい環境・生活に慣れるよう頑張っている姿があり、学習の面でも努力が見られるとお話をいただきました。

2年生・3年生に関しても、昨年よりも成長した事や、園では見ることができない学校での様子を聞く事ができました。

今年度は2名の受験生がいます。現在それぞれ高校受験に向け毎日一生懸命頑張っています。部活動で野球部に所属している子は、もうすぐ最後の大会を控え、園の生活に、受験勉強、非常に忙しい生活ですが、自分の将来に向かって頑張っています。そんな子ども達の夢を全力でサポートできるように、職員一丸となって勤めていきたいと思っています。